

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

第69回臨時理事会議事録

- 1 開催日時 2025年12月24日(水) 14時00分～16時00分
- 2 開催場所 東京都千代田区丸の内3丁目5番1号
東京国際フォーラム 4階G402を開催場所として、Web会議システムの併用による会議
- 3 出席者数 理事総数 34名 出席理事 31名
監事総数 2名 出席監事 1名
- 4 出席役員 理事 十倉 雅和、石毛 博行、松本 正義、鳥井 信吾、永井 靖二、川崎 博也、小林 健、吉村 洋文、横山 英幸、國部 毅、浅川 智恵子、池坊 専好、ウスビ・サコ、小川 理子、ロバート キャンベル、栗原 美津枝、澤田 拓子、寺田 千代乃、野崎 治子、野田 由美子、廣瀬 恭子、フォーリー 淳子、福本 ともみ、御手洗 瑞子、芳野 友子、小野 平八郎、高科 淳、東川 直正、田中 清剛、櫛 真夏、水谷 徹
監事 中務 裕之
なお、松本 正義、鳥井 信吾、永井 靖二、川崎 博也、小林 健、吉村 洋文、横山 英幸、池坊 専好、ウスビ・サコ、澤田 拓子、寺田 千代乃、野崎 治子、廣瀬 恭子、フォーリー 淳子、芳野 友子、中務 裕之
の16名は、Web会議システムにより本理事会に出席した。
- 5 議題
 - (1) 決議事項
 - 第1号議案 閉幕後の組織体制への移行に伴う関係規程の一部改定の件
 - 第2号議案 寄附受入の件
 - 第3号議案 会場基盤施設等撤去工事の工事発注の件
 - 第4号議案 会場整備にかかる工事等の変更の件
 - (2) 報告事項
 - 報告事項1 データから振り返る大阪・関西万博の件
 - 報告事項2 公式記録関連の制作物の件

- 報告事項 3 海外パビリオンの状況の件
報告事項 4 協会施設・設備等のリユース実施状況の件
報告事項 5 財務状況の件

6 議事の経過の概要及びその結果

出席する理事に対して、Web会議システムにより、出席者の音声即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して、定刻、定款第33条に基づき十倉雅和会長が議長となり、開催を宣言し、理事会が開催された。議長の指示により事務局から、本理事会は、定款第34条の規定に定める定足数を満たし、有効に成立している旨を説明した。

その後、下記議事の審議に入った。

なお、議長の指示により、質疑応答の進行は事務局が行うことになった。

また、議事録記名人は定款第36条の規定に基づき、十倉雅和会長、石毛博行事務総長、小原正敏監事及び中務裕之監事とした。

【決議事項】

第1号議案 閉幕後の組織体制への移行に伴う関係規程の一部改定の件

議長により担当理事が指名され、当該議案について説明するよう指示があり、担当理事は、議案書のとおり、閉幕による協会業務の縮小にあわせた事務職組織及び職制等の変更に伴う関係規程の一部改定について、承認を求める旨の説明を行った。

この賛否を諮ったところ、全員異議なく、これは原案どおり可決された。

第2号議案 寄附受入の件

議長により担当理事が指名され、当該議案について説明するよう指示があり、担当理事は、議案書のとおり、公益財団法人関西・大阪二十一世紀協会からの寄附受入について、承認を求める旨の説明を行った。

この賛否を諮ったところ、全員異議なく、これは原案どおり可決された。

※吉村理事は理事会運営規程9条2項に規定する特別の利害関係を有する理事に該当するため、当該議決に加わっていない。

第3号議案 会場基盤施設等撤去工事の工事発注の件

議長により担当理事が指名され、当該議案について説明するよう指示があり、担当理事は、議案書のとおり、大阪市へ会場敷地を返還するために必要となる会場基盤施設等撤去工事の工事発注について、承認を求める旨の説明を行った。

この賛否を諮ったところ、全員異議なく、これは原案どおり可決された。

※永井理事は理事会運営規程 9 条 2 項に規定する特別の利害関係を有する理事に該当するため、当該議決に加わっていない。

第 4 号議案 会場整備にかかる工事等の変更の件

議長により担当理事が指名され、当該議案について説明するよう指示があり、担当理事は、議案書のとおり、施設整備事業工事の契約変更について、承認を求める旨の説明を行った。

この賛否を諮ったところ、全員異議なく、これは原案どおり可決された。

※永井理事は理事会運営規程 9 条 2 項に規定する特別の利害関係を有する理事に該当するため、当該議決に加わっていない。

【報告事項】

報告事項 1 データから振り返る大阪・関西万博の件

議長より、事務局から報告するよう指示があり、担当室長は、万博来場者に関するデータや会場運営に関するデータ、イベント等の実績などについて、報告を行い、これを了承した。なお、本件について以下のような発言があった。

・会場内の診療所に運ばれた人数やそこから病院に運ばれた人数などは詳細に残した方がいい。これだけ気候変動がある中で日本のような気温帯の国で夏季に大規模イベントを開催することが適切なのか、議論の余地があると考えており、検討するうえで今回の万博のデータは貴重と考えている。

報告事項 2 公式記録関連の制作物の件

議長より、事務局から報告するよう指示があり、担当理事は、協会が担当している公式記録関連の制作物について、報告を行い、これを了承した。

なお、本件について以下のような発言があった。

・公式記録集の構成案第 5 章「持続可能性に関する取り組み」のところについて意見を申し上げたい。複数のヨーロッパパビリオンや日本館では循環がテーマだったが、本万博において循環の取り組みをどのように実施したかについて、次の万博に継承していただきたい。リングはリユースや保存、エネルギーリカバリーとして循環させており、またパビリオンや備品は移設あるいはマク市でのリユースなどを行った。極めて環境負荷の高い有期限のイベントにおいて、どのように循環に向けて努力したかまとめていただきたい。また反省点として、あらかじめ会期後の分解・解体を考慮した設計による循環性の向上や解体コストダウン

の可能性など、次に向けての学びとして整理のうえ、記録集に盛り込んでいただきたい。

・公式記録を関係者や図書館などに向けた政府刊行物として仕上げるという発想を変えていただきたい。エディターがキュレーションして細かい内容まで見通し、トピックをたてて総覧を作りリンクを付けるなどの構成づくりは刊行物の形式では限界があり、文化資源として長く活用できるようにしていただきたい。ブルーレイは使う人が少なく、記録媒体も再考が必要。今回の報告を見ると、いわば政府刊行物として関係者に配布するだけで終わるように見受けられるが、世界遺産に匹敵する事業を後世に残すつもりで記録集を制作しないとけない。

・最初から編纂を含めて外部にアウトソーシングするのが良い。現場から声を集めるのは必要だが、内製では石碑のような記録集ができるだけである。協会から距離をとった外部がプロフェッショナルなものとして記録を作っていくべき。

・今後の万博のあり方や運営の検討にあたり、どんな課題があったかを残していくことこそ重要である。公式記録ではなくても課題に対応してきた過程を何らかの形で残していくことが今後役に立つ。また、バーチャル万博もネット上で高い評価を得ており、これも推進上の工夫や課題について、しっかりと残しておく必要がある。これからも、ハードを作って短期間で壊すという万博で良いのか、あるいはもっとバーチャルとのハイブリッドを追求していくのかなどの議論の余地がある。万博の記録を図書館や関係者だけの手に置くだけではもったいない。共創で関わった方々の目に触れられるよう、記録の配布方法を工夫いただきたい。

・アーカイブをどう残すかは大変重要。パビリオンのみならずナショナルデーなどにおいて経済外交が行われていたが、こうした成果を残せないか。また、印刷物のみならずデジタルやWEBでどのように残すかが重要。

報告事項3 海外パビリオンの状況の件

議長より、事務局から報告するよう指示があり、担当局長は、海外パビリオンの内装撤去の状況や建設工事代金の支払い状況について、報告を行い、これを了承した。

報告事項4 協会施設・設備等のリユース実施状況の件

議長より、事務局から報告するよう指示があり、担当局長は、大屋根リングやシグネチャーパビリオン、什器・備品などの協会施設・設備等のリユース実施状況について、報告を行い、これを了承した。

報告事項5 財務状況の件

議長より、事務局から報告するよう指示があり、担当理事は、運営費や会場建設費の執行状況等の財務状況について、報告を行い、これを了承した。

また、これらの議題、報告事項以外に関連して、以下のような質疑があった。

・大屋根リングやパビリオン設備等のハード系のレガシーの議論は進んでおり、技術のレガシーについても、実装化についてはこれまでも議論があり、具体化していくことになると思うが、議論できていないのがデザインのレガシーであり、万博の共創を表象していると考えている。これまでの日本のビックイベントは、デザインを作ってもイベントが終わると終了していたが、今回の万博はそうではないやり方を考えてみたらどうか。具体的には、ミヤクミヤクはもちろんそうだが、「こみゃく」が人と人をつなぐ、まさに共創の表象になったと思うし、これからもなると思っている。「こみゃく」は色々な形を作りやすく、文字になったりイラストになったり、その人独自のものになり、そして繋がっていくものだったと思う。万博会場を探すと「こみゃく」がたくさんいて、いろんなメッセージをたくさん発信し、これが非常に大きな役割を果たした。これをそのまま消滅させてしまうのはもったいない。そのため、「こみゃく」については商業利用と一般利用の両方で、ネット上でも実社会においても二次創作も含めて誰しもが自由に使えるものにしたらいいと思う。それにより、今回の万博の絆、人と人との繋がりや共創というものがデザインを通じてレガシーとして、さらに大きいものになると考えている。「こみゃく」を著作権フリーの形で無償利用できるようにして万博のデザインをレガシーとして残していくことが、非常に有効と考えている。

・オールインクルーシブに関する報告を見たが、この報告書では伝わらないことも多く、もったいないと感じている。例えば、一日あたりの車椅子の貸出しは656台が最高と報告されているが、知り合いは夕方に来ると車椅子を借りることができなかった。では何台用意していたのかという記録が必要。また、視覚障害者向けの shikAI は今回の報告書だけではその有用さが伝わらないので映像等を駆使して工夫していただきたい。

・愛知万博でアルムナイの会があったように思うが、何らかの形でレガシーとして語り継がれていくことが重要であり、今回の万博でもアルムナイ、同窓会の立ち上げを検討していただきたい。

以上をもって、当日のWeb会議システムを用いた理事会は、終始異常なく、議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長が16時00分閉会を宣し、解散した。